

四面楚歌

四面楚歌

(中国の故事)

昔、中国で、楚の項羽と、漢の劉邦という二人の英雄が、天下をかけて争っていました。はじめは、強い項羽が勝ち続けていましたが、しだいに劉邦の側に味方する者がふえていきました。

そして、あるとき、項羽の軍は、垓下というところで、劉邦の大軍に囲まれてしまいました。兵の数はへり、食料も少なくなっていました。ある夜、項羽が陣の中にといて、周りを囲む漢の陣から、楚の国の歌が聞こえてきました。それも、東からも西からも、南からも北からも、四方八方から聞こえてくるのです。

項羽は、おどろいて言いました。「漢は、もう楚の国をすべて手に入れてしまったのか。なんと、楚の人の多いことよ。」楚の人々までもが、敵の側についてしまったと思ったのです。じつは、これは、項羽の兵の心をくじくための、劉邦の作戦でした。けれども、項羽は、もはやこれまでと覚悟を決めたと伝えられています。

この話から、周りがすべて敵や反対する人ばかりで、だれも味方がいないことを、「四面楚歌」というようになりました。「まさに四面楚歌の状態だ」のように使われます。



1 項羽は、どこの国の英雄ですか。

2 周りの漢の陣から聞こえてきたのは、何ですか。

ア 漢の国の歌

イ 楚の国の歌

ウ たいこの音

3 その歌を聞いた項羽は、どう思いましたか。

ア 楚の人々までもが、敵の側についてしまった。

イ 味方が助けに来てくれた。

ウ 戦いに勝てそうだ。

4 「四面楚歌」の意味に合うものに、○をつけましょう。

ア 周りが敵ばかりで、味方がいないこと

イ 四方に歌が広がること

ウ 多くの人におうえんされること